

論 文

様態補語と連用修飾語の共起について

Co-occurrence of Complement of State and Adverbial Modifier in Chinese

頼 明

Akira RAI

Key words : 様態補語, 連用修飾語, 共起

0. はじめに

中国語の文成分で、主語、述語、目的語は学習者にとって、比較的理解しやすい。次に理解しやすいものとして、動詞や形容詞を修飾する連用修飾語と、名詞を修飾する連体修飾語が挙げられる。また、学習者にとって理解しにくいものとして、補語が挙げられる。

中国語の補語には、様態補語、程度補語、結果補語、方向補語、可能補語、動量補語、時量補語、数量補語などが挙げられる。ここでは、入門を終えた初級、中級段階の学生が様態補語を学ぶ際の問題点、留意点について考察してみたい。

様態補語とは、動作主の行う動作に対して、その状態がどうであったかについて評価を行う表現形式である。主に「動詞+“得”+形容詞など」で構成される。形容詞の部分はフレーズになっていることもある。日本語では一般に「～するのが…だ」, 「～する仕方が…だ」などと訳される。

(1) 他来得很早。(彼は来るのがとても早い。)のような例が挙げられる。

教科書によっては、「形容詞+“得”+程度表現」で構成されるもの、

(2) 我高兴得不得了。(私はうれしくてたまらない。)なども、様態補語に入れている場合があるが、今回は前者のみ、そして、補語の部分が形容詞であるケースについて考察を行う。

入門の段階では、①程度副詞“很”(とても)や否定

の副詞“不”(～ない)などは形容詞の前に置く。②目的語を伴う場合は、動詞を繰り返す。つまり、「主語+述語動詞+目的語+(同じ)述語動詞+“得”+形容詞」となるのみ述べている教科書が多い。

1. 実際の言語運用と教学との隔たり

実際の言語運用において、様態補語を伴う文には、“很”や“不”以外にも、様々な連用修飾語が用いられている。

中国語において、連用修飾語になり得る主なものとして、時間詞、副詞、助動詞、前置詞句などが挙げられる。また、連用修飾語は動詞、形容詞の両方を修飾することができる。

ここで、問題になるのは、様態補語を伴う文には、述語である動詞と補語を担う形容詞の両方が用いられており、しかも両者の結びつきが弱いということである。

両者の結びつきが強ければ、述語である動詞と補語である形容詞との間にその他の成文、例えば、連用修飾語などは入り込みにくい。そのため、単純に述語動詞の前に連用修飾語を置けば良い。

しかし、両者の結びつきが弱ければ、述語である動詞と補語である形容詞の間にも連用修飾語を置くことができるということになる。“很”や“不”などが形容詞の前に置かれるのは、まさにそのためである。

実際において、様態補語を伴う文には、補語である形容詞の前にだけでなく、述語である動詞の前にも連用修飾語が使われている。

入門段階において、「很」や「不」などの副詞は形容詞の前に置く。」とのみ学習している学生にとって、その他の連用修飾語が現れた場合、それらをどこに置くべきが、迷うことになる。

2. 様態補語と連用修飾語の共起の状況について

実際に様態補語を伴う文に、連用修飾語が用いられるパターンは3通りある。一つは、述語である動詞の前に用いられているパターン。もう一つは、補語である形容詞の前に用いられているパターン。そしてもう一つは、述語である動詞と、補語である形容詞の両方の前に用いられているパターンである。

ここでは、辞書に見られる用例を元に、実際の使用状況について、パターン別に考察してみたい。

2.1. 連用修飾語が述語である動詞の前に用いられる例

- (3) 今天鱼捕得多。(今日は大漁だった。)
- (4) 他总是说得漂亮,但说的与做的毫不相关。(あの人はいつも言うことは立派だが、言うこととすることが結びつかない。)
- (5) 那个贪心不足的人一下子变得大方起来,好像换了个人似的。(あの欲深い人は急に気前が良くなって、まるで人が変わったようだ)
- (6) 他突然变得衰弱了。(あの人はがたと衰弱した。)
- (7) 她经常穿得整整齐齐的。(彼女はいつもきちんとした服装をしている。)
- (8) 如果能办得顺利就好了。(うまくいくといいが。)
- (9) 那孩子比半瓶子墨水的画家画得好多了。(その子はなまじのプロよりもずっと絵がうまい。)
- (10) 把饭煮得硬点。(ご飯を硬めに炊く。)
- (11) 被捧得牛气起来。(ちやほやされて天狗になる。)
- (12) 那个演员在舞台上比电影里表演得好。(あの役者は映画よりも舞台の方がよい。)
- (13) 越骂反越抗得厉害。(叱れば叱るほどかえって反抗する。)
- (14) 在这一点上你说得对。(この点においてきみの言いは正しい。)

(3)から(7)は、時間詞、時間副詞、頻度副詞が連用修飾語として、動詞の前に用いられている例である。(8)は助動詞が連用修飾語として、動詞の前に用いられている例である。(9)から(11)は前置詞が連用修飾語として、動詞の前に用いられている例である。これらは、一般に動詞とともによく用いられるものである。

また(12)から(14)は、補語である形容詞が単独で用いられ

る例である。このように形容詞が単独で用いられる例は少ない。これは、形容詞が単独で用いられる場合、比較・対比のニュアンスが出やすい。また、文終止できないことが多いことに起因していると思われる。

つまり、補語である形容詞は、連用修飾語を伴わないものの、重ね型で用いられるか、あるいはその他の補語などを伴うことが多い。

(12)は前置詞句“比电影里”を補語である形容詞の前に置いても文は成立できる。

(15) 那个演员在舞台上表演得比电影里好。(頼による作例)

しかし、(12)の方が比べている対照を隣り合わせにすることで、比較の対照がより明確であると言える。

また、(13)は二番目の程度副詞“越”を、補語である形容詞の前に置いても文は成立できる。

(16) 越骂反抗得越厉害。(頼による作例)

(13)では“越”が述語である動詞“抗”と補語である形容詞“厉害”の両方にかかっている。(15)では“越”が補語である形容詞“厉害”のみにかかっている。

中国語では、一般に補語は新情報であり、表現の中心である。そのため、(15)の方がより焦点が明確になっているとすることができる。

一方で、「副詞“反”+動詞“抗”+“得厉害”」なのか「動詞“反抗”+“得厉害”」なのか不意明確になり、(13)がより妥当性がある。

2.2. 連用修飾語が補語である形容詞の前に用いられる例

- (17) 打扮得再年轻,也掩饰不了。(どんなに若作りしても年はごまかせない。)
- (18) 你打扮得可真够漂亮的呀!(ずいぶんお化粧してるじゃないか。)
- (19) 那说得有点儿过分。(それは少し言い過ぎだ。)
- (20) 即使如此,来得也太晚了。(それにしても来るのが遅い。)
- (21) 跑得比子弹快,能跳过高楼大厦,那是超人。(弾よりも速く、高いビルもひとつ飛び、それはスーパーマンだ。)
- (22) 即使如此,也来得太晚了。(頼による作例)

(20)の方は頻度副詞“也”が補語である形容詞“晚”にのみかかっており、より焦点が明確であるということが

できる。

そして、(12)では比較の対照を明確にするため、前置詞句“比电影里”を述語である動詞の前に置いていたが、(21)のように、前置詞句“比子弹”を述語である動詞の後ろ、補語である形容詞の前に置くことで、動作に対する評価がより明確になる。

2.3. 連用修飾語が述語である動詞と補語である形容詞との両方の前に用いられる例

- (22) 这些天雨下得真多呀。(このごろ本当に雨勝ちだね。)
- (23) 正因为有您，那项工作才进行得很顺利。(あなたがいたからこそ、その仕事もうまくいった。)
- (24) 这幅画和那幅画不要离得太远。(この絵とあの絵はそんなに離してはいけない。)
- (25) 唉呀！怎么蹭得这么厉害呀！(あらまあ、ひどくすりむいたね。)
- (26) 原以为会进行得很顺利，可是失败了。(うまくいくだろうと思っていた。しかし失敗してしまった。)
- (27) 那位评论家对世道分析得很精辟。(その評論家は世相を一刀両断する。)
- (28) 这条铁路与公共汽车的联运连接得不好。(この鉄道はバスとの連絡が悪い。)
- (29) 不能卖得那么便宜。(そんな安値では売れない。)

このタイプは述語である動詞の前には連用修飾語として、時間詞、時間副詞、頻度副詞、禁止を示す副詞、助動詞、前置詞などが使われ、補語である形容詞の前には程度副詞が用いられることが多い。

また、否定型については、(28)のように、一般に補語である形容詞の前に否定の副詞“不”が置かれる。しかし、(29)のように助動詞が用いられている場合、否定の副詞“不”は助動詞の前に置かれる。

(25)では、疑問詞“怎么”は文全体にかかっており、補語である形容詞“厉害”の前に置けば、動作の結果により焦点を当てた質問になる。

3. おわりに

様態補語と連用修飾語の共起に見られる三つのパターンについて分析してきたが、程度副詞は補語である形容詞の前により多く用いられ、その他の副詞や助動詞、前置詞句は述語である動詞の前により多く用いられている。

学習者に対し、文成分の理解を徹底させ、そして品詞と文成分の相関関係に対する理解を深めることが、様態補語に対する理解を深めるのに有益であり、さらには中

国語全般に対する理解を深めることにつながるということが出来る。

主要参考文献

- 相原茂, 石田知子, 戸沼市子 著 1996 『Why?にこたえる 初めての中国語の文法書 新訂版』, 同学社
- 奥水優, 島田亜実 著 2009 『中国語 わかる文法』 北京・对外経済貿易大学, 北京商務印書館, 小学館 編2015 『小学館 日中辞典第3版』, 小学館
- 依藤 醇, 小川文昭, 三宅登之 編 2002 『小学館 中日辞典第2版』, 小学館
- 愛知大学中日大辞典編纂所 編 2010 『中日大辞典第三版』, 大修館書店
- 高田 裕子, 張 弘 著, 塚本 慶一 編 2006 『中国語新語 ビジネス用語辞典』, 大修館書店
- 阮 智富, 郭 忠新 著 2009 『現代漢語大詞典』, 上海辞書出版社